HONDA
汎 用 製 品

HPE60

取扱説明書

ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

●一般公道では使用できません。

●夜間作業はできません。

（作業灯の装備がされていません）

●塩水のかかるおそれのある場所では、本機を使用しないでください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた電動アシスト一輪運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

- 保証書はよくお読みいただき、裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 7
サービスと保証について …… 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 9
電源スイッチ …… 11
スライド グリップ …… 11
ブレーキ レバー …… 12
駐車ブレーキ レバー …… 12
バッテリ残量計 …… 13
スタンド …… 13
作業前に点検しましょう …… 14
バッテリの点検 …… 14
タイヤの点検 …… 15
ブレーキ作動の点検 …… 16
運転操作のしかた …… 17
発進のしかた …… 17
停止のしかた …… 19
保護装置について …… 21
積載のしかた …… 22

定期手入れを行いましょう……23
定期点検……23
やさしい点検・整備……24
バッテリ充電のしかた……24
バッテリの取外しかた……26
ブレーキ ケーブルの点検・調整……28
ブレーキ シューの点検……29
ヒューズの点検・交換……30
トラック(車)への積み降ろしのしかた……31
長期間使用しないときの手入れ……33
故障のときは……34
同梱部品の組付けかた……35
主要諸元……36

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

・この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。

・間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。

・過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。

・頭髪、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。

・日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。

点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締付けられていることを確認してください。

・カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。

・適切な説明がない状態で他の人に本機の操作をさせないでください。特に子供には絶対にさわらせないでください。

・他の人に本機を貸し出す場合は、取扱方法をよく説明し取扱説明書をよく読むように指導してください。

・本機は運搬用の電動アシスト一輪運搬機です。他の目的に使用しないでください。本機でけん引作業をするのはやめてください。

警告

●荷物の積載

・積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」（22頁参照）

・最大積載量を超えて積載したり、最大高さを超えるような積み方はしないでください。重心が高くなり転倒したり転落するおそれがあります。

●作業中

・作業中は周囲の安全に十分注意してください。

・本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、本機を止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。

・本機の操作は２本のハンドルをしっかり握り、本機の後方に立って行ってください。本機は一輪車ですので、転倒しないように十分バランスをとって操作してください。

・荷台に人を乗せないでください。転倒、転落、巻き込まれなど思わぬ事故を起す原因になります。

・運転中は、タイヤに手や足を近づけないように注意してください。タイヤに巻き込まれけがをするおそれがあります。

・急発進、急停車はしないでください。荷物が落下したり、本機が転倒しケガをする場合があります。

・バッテリを障害物などに衝突させないように注意してください。バッテリにひびが入ったり割れると中の希硫酸が漏れ出し、目や皮膚に付くとその部分が侵されます。

・視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。

・作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、方向を転換するときなどは転倒する可能性があります。速度を落し、周囲に注意して運転してください。

警告

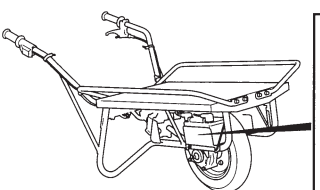
・電源を入れた状態では、本機を傾けて使用しないでください。小回りで方向転換するとき、立掛けるときなど本機を傾けて使用すると、スライド グリップに力が加わりやすい操作姿勢になります。この場合、スライド グリップに加わる力が強くなり、補助力で本機が前方にとび出すおそれがあります。
・駐車をするときは傾斜地を避け、平坦な場所に本機を止め、駐車ブレーキを“ロック”してください。
・急傾斜地での方向転換は、転落するおそれがありますので避けてください。
・本機の転倒を避けるため、15度以上の上りの傾斜地や15度以上の下りの傾斜地では使用しないでください。
・傾斜地で停止するときは、必ずブレーキをかけ停止してください。ブレーキをかけないで上りの傾斜地で停止すると、補助力が発生したまま停止した状態となります。この状態では、モータ保護のため補助力が切れることがあり、荷重の変化でバランスを崩すおそれがあります。

●作業が終わったら

・作業の途中で本機から離れるとき、または点検や充電するときは、平坦な場所に駐車し、駐車ブレーキを“ロック”して電源スイッチを“切”にしてください。
本機が動きだし、巻きこまれてケガをする場合があります。
・次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
・トラック(車)への積み降ろしをするときは、荷物を降ろしアユミ板を使用して低速で行ってください。転倒や落下した場合にケガをするおそれがあります。

●安全ラベル

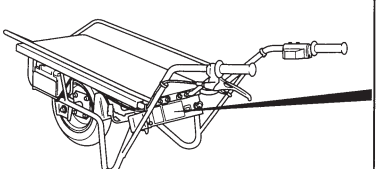
本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに張り替えてください。
また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。



危 火気禁止　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

●バッテリは水素ガスの発生があり、取扱を誤ると引火爆発のおそれがあります。
・このバッテリを二輪自動車やエンジン始動用以外の用途には使用しないでください。
・充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。

険 ●バッテリ液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。



⚠ 警 告

死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

■ 運転時の転倒・転落・巻き込まれ防止のため、
- 荷台への乗車はしないこと。
- 最大積載量以上の積載はしないこと。
- 乗り越え、溝のある場所、斜面、草地、濡れた場所などでは、十分注意して、スピードを落して走行のこと。
- 急発進・急停止はしないこと。

■ 駐車・点検・充電時の暴走・巻き込まれ防止のため、
- 平坦な場所でブレーキをロックし、電源を"切"にすること。

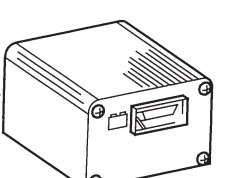
■ バッテリーのショート防止のため、
- バッテリー着脱時ターミナルカバーが端子を覆っていることを確認のこと。
- バッテリー充電後は、充電コンセントにキャップをはめ込むこと。

公道走行禁止（小型特殊自動車の形式認定を取得していません。）

⚠ 警 告

死亡事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

● 雨中使用禁止。
● 濡れた手でさわらないで下さい。



バッテリ充電器

サービスと保証について

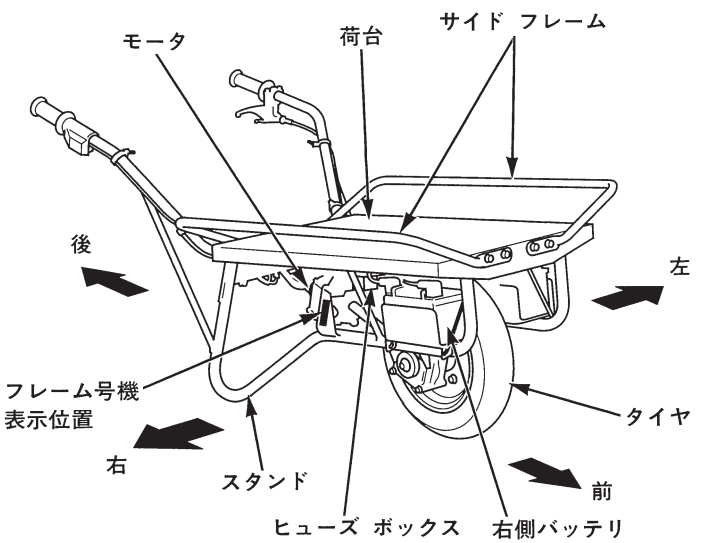
- お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申し付けください。また、ご相談窓口として「ホンダ汎用営業所・S店住所一覧」を別紙で同梱しておりますのでご利用ください。

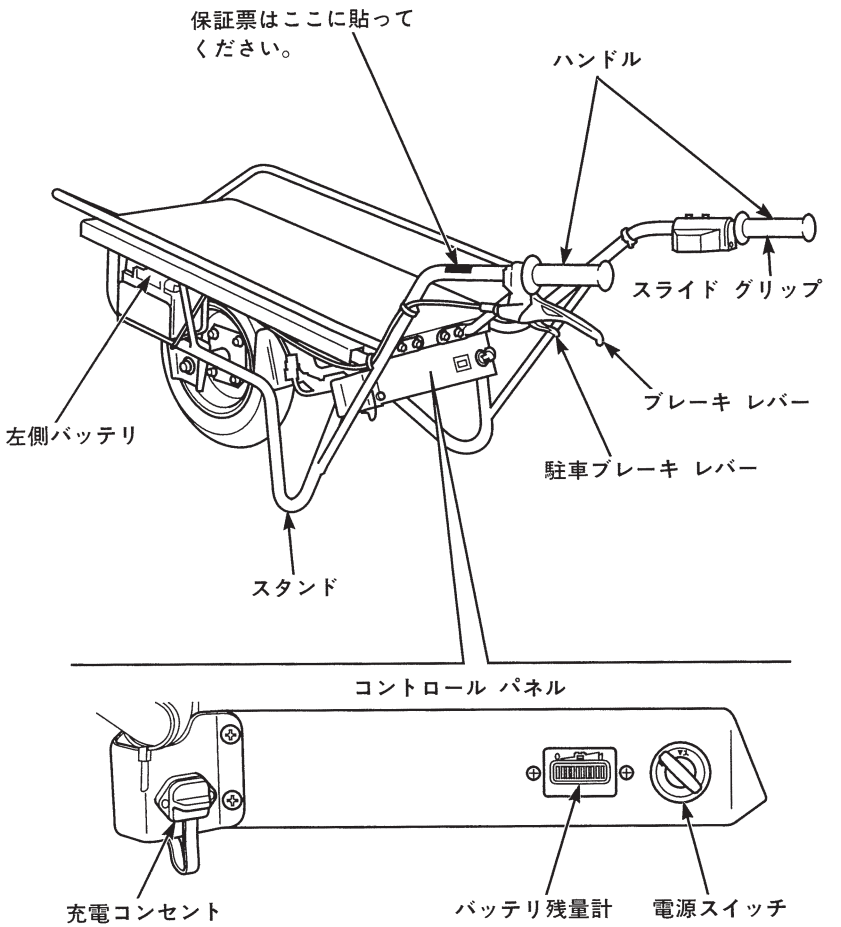
ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

※フレーム号機の表示位置は9頁をご覧ください。

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください）

各部の名称と取扱いをおぼえましょう



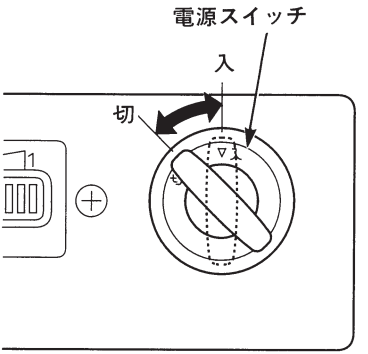

保証票はここに貼って
ください。
ハンドル
スライド グリップ
ブレーキ レバー
駐車ブレーキ レバー
左側バッテリ
スタンド
コントロール パネル
充電コンセント
バッテリ残量計
電源スイッチ

電源スイッチ

モータの電源を**“入”**、**“切”**するスイッチです。

入……電源が入ります。

切……電源が切れます。

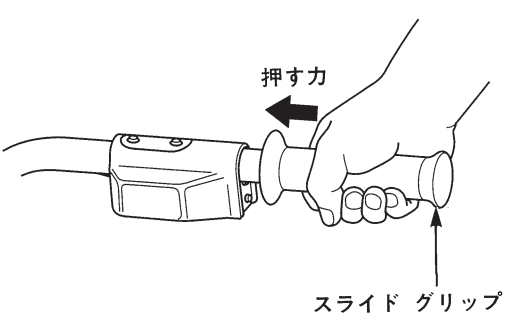


スライド グリップ

右側ハンドルの握り部がスライド グリップです。

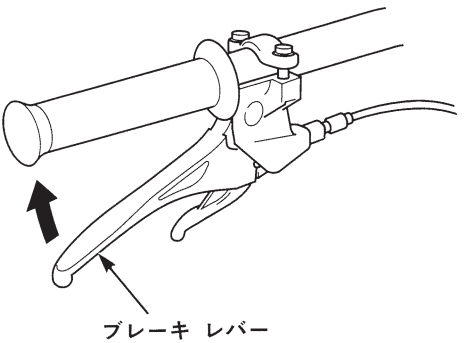
右手でスライド グリップを握り、左手で左側ハンドルを握り本機を保持してください。

スライド グリップに加わる押す力にしたがい、モータの補助力が発生します。



ブレーキ レバー

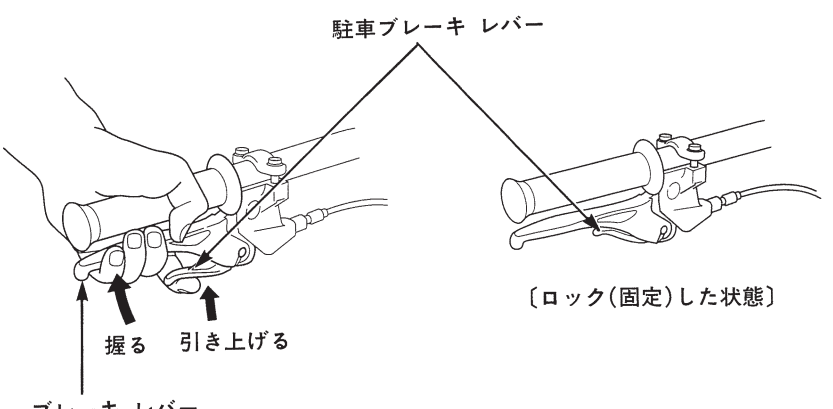
ブレーキ レバーを握ると本機が停止します。



駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

ブレーキ レバーを強く握り、駐車ブレーキ レバーを引き上げ、ブレーキ レバーから手を離すと駐車ブレーキ レバーがロック(固定)します。解除するときは、ブレーキ レバーを強く握り、駐車ブレーキ レバーを押し下げます。

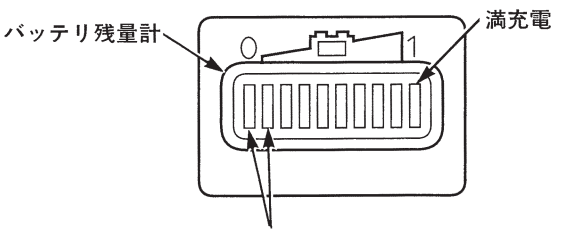


バッテリ残量計

バッテリの残量を表示します。

- 満充電時は右端のランプが点灯します。走行するにしたがい右端から1個ずつ左に移動します。
- 左端2個のランプが交互に点滅したときは残りわずかです。できるだけ早く充電してください。
- バッテリ充電中は、バッテリの残量が正しく表示されません。充電の完了は、充電器のインジケータで確認してください。

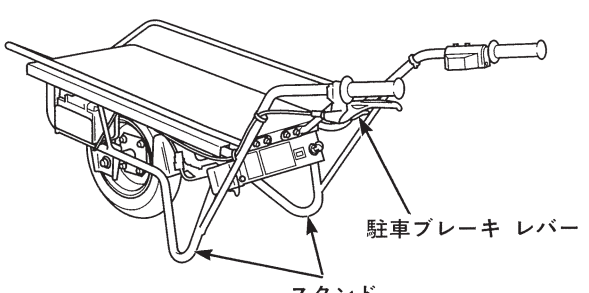
バッテリの寿命を保つため、作業が終ったらすぐにバッテリを充電するようにしてください。(24頁参照)
作業まえに満充電になっていることを確認してください。



左端2個のランプが交互に点滅したときは残量がわずかです。
できるだけ早く充電してください。

スタンド

本機を駐車するとき、左右のスタンドを接地させ使用します。
駐車をするときは傾斜地を避け、平坦な場所に本機を止め、駐車ブレーキ レバーをロック(固定)してください。



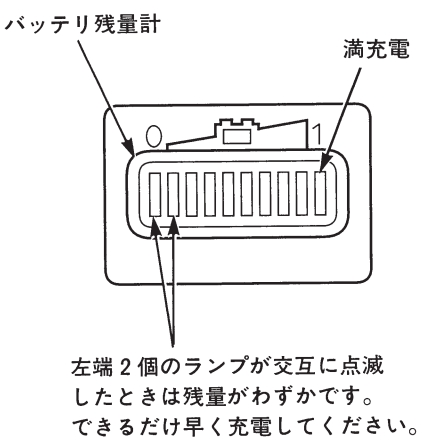
バッテリの点検

・バッテリ残量の点検

バッテリ残量計でバッテリの残量を点検します。
作業まえに満充電(右端のランプが点灯)にしてからご使用ください。
左端2個のランプが交互に点滅したときは残量が少なく充電が必要な状態です。
バッテリの充電は、24頁を参照してください。

取扱いのポイント

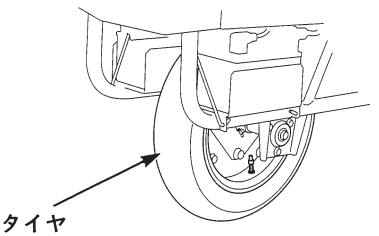
左端2個のランプが交互に点滅しているときは、そのまま使い続けると完全に放電状態になり、モータが動かなくなります。この状態になるとバッテリの寿命が短かくなります。
左端2個のランプが交互に点滅しだすまえに充電を行ってもバッテリを損傷することはありません。バッテリの寿命を保つため、作業が終ったらすぐに充電することをおすすめします。



タイヤの点検

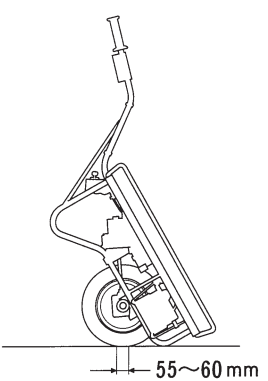
タイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：294kPa(3.0kgf/cm^2)



タイヤの空気圧は、本機を倒立状態にして、タイヤの接地面の長さを測定することによって点検します。

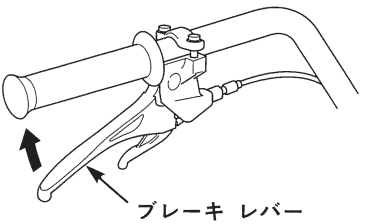
接地面の長さ(空気圧：294kPa、3.0kgf/cm^{2}時)：55～60mm



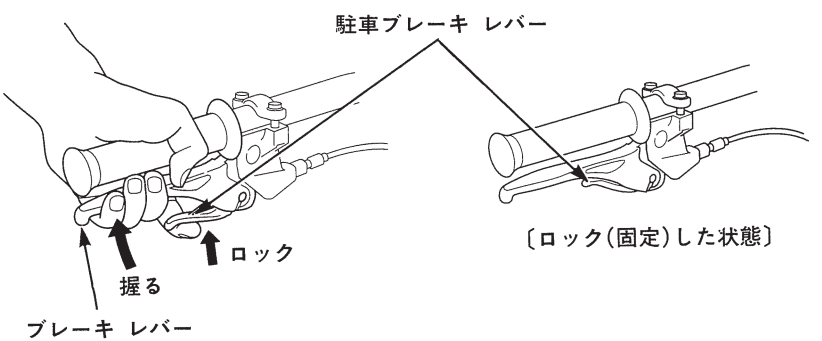
タイヤに亀裂、損傷がないか点検してください。

ブレーキ作動の点検

本機を押したり引いたりして、ブレーキ レバーを握ると本機が停止することを点検します。



ブレーキ レバーを強く握り、駐車ブレーキ レバーを上に引き上げます。ブレーキ レバーから手を離し、駐車ブレーキ レバーがロック(固定)することを点検します。



運　転　操　作　の　し　か　た

作業を始める前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」(4～6頁)の項目を良くお読みになり作業にとりかかってください。

⚠ 警告

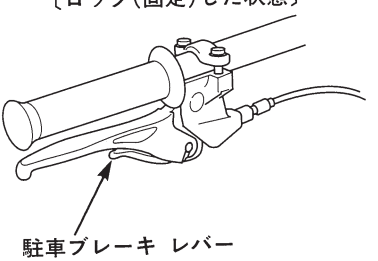
接触・衝突などの事故を防止するため、次の事項を守ってください。

- **作業中は周囲の安全に十分注意してください。**
- **作業範囲中に人やペットを近寄らせないでください。特に子供には注意してください。人やペットが近づいて来たときは、本機を止めて作業を中断してください。**
- **本機は一輪車ですので、転倒しないように十分バランスをとって操作してください。**

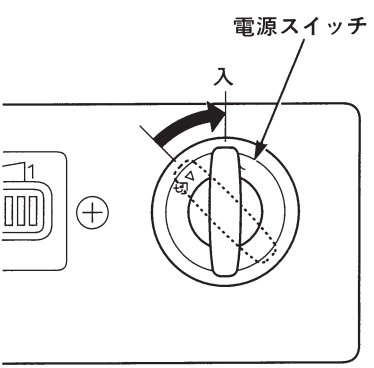
発進のしかた

1．駐車ブレーキ レバーがロック(固定)の位置になっていることを確認してください。

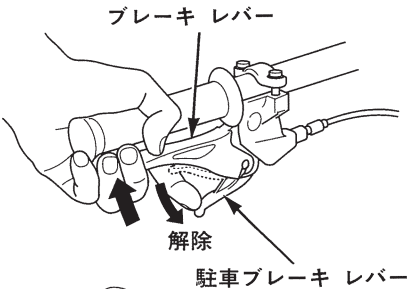
〔ロック(固定)した状態〕



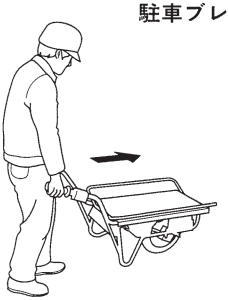
2．電源スイッチを**"入"**にします。



3．左右のハンドルを持ちます。ブレーキ レバーを強く握り、駐車ブレーキ レバーを押し下げ解除します。



4．ハンドルを持ち上げブレーキ レバーから手を離し、本機を押します。
本機を押す力に応じて、モータの補助力が加わります。



⚠警告

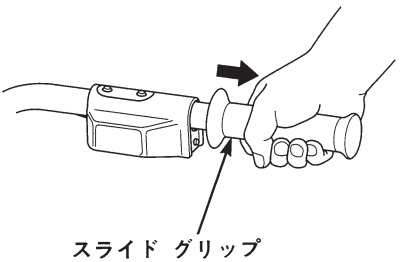
傾斜地で停止するときは、必ずブレーキをかけ停止してください。ブレーキをかけないで上りの傾斜地で停止すると、補助力が発生したまま停止した状態となります。この状態では、モータ保護のため補助力が切れることがあり、荷重の変化でバランスを崩すおそれがあります。

取扱いのポイント

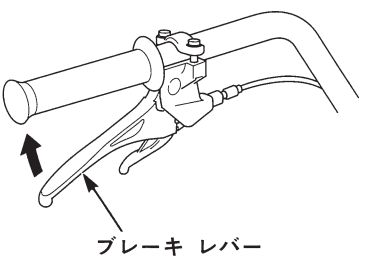
- **電源スイッチを“入”にしたまま30分以上放置すると、自動的に電源が切れます。使用する場合は、電源スイッチを一旦“切”にしてから、もう一度“入”にしてください。**
- **車軸をロックさせたままスライド グリップを押さないでください。モータが損傷するおそれがあります。**
- **電源スイッチが“入”の状態で本機を押したり引いたり連続的に行うと、一瞬引き荷重が重くなることがありますが、故障ではありません。**

停止のしかた

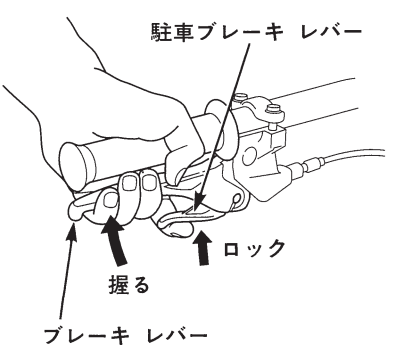
1．本機を押すのをやめると、本機が停止します。

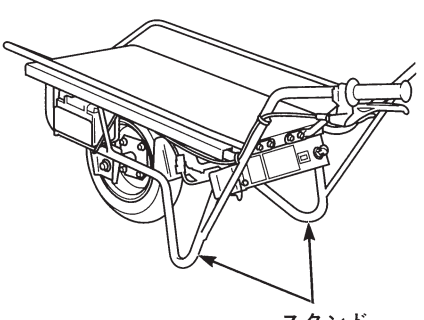


必要に応じてブレーキを使用してください。

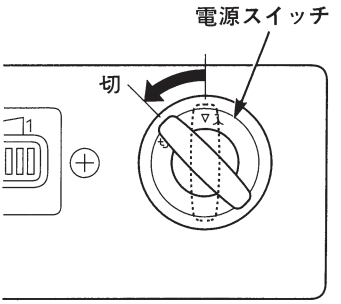


2．左右のスタンドを接地させ、ブレーキ レバーを上に引き上げ駐車ブレーキ レバーをロック(固定)します。





3．電源スイッチを“切”にします。
本機からはなれるときは、キーを抜いてお持ちください。



⚠警告

駐車をするときは傾斜地を避け、平坦な場所に本機を止め、駐車ブレーキをロック(固定)してください。

取扱いのポイント

- **本機を使用しないときは、必ず電源スイッチを“切”にしてください。電源スイッチを“入”のままにしておくと、本機を動かさなくてもバッテリが消耗します。**

保護装置について

モータの機能を保護するために本機にはモータ保護装置がついています。

- モータ保護装置
  車輪(モータ)をロックさせたまま、スライド グリップを押し続けると、モータの補助力が切れます。
  モータの補助力が切れた場合は、押すのを一度止め、再度スライドグリップを押してください。モータ保護装置が解除され、モータの補助力が発生します。

取扱いのポイント

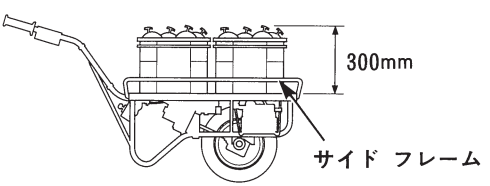
モータ保護装置が頻繁に作動する場合は、能力を超えた使用条件ですので作業方法を変更してください。

積載のしかた

⚠警告

転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。
- **荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。**
- **15度以上の傾斜地では本機を使用しないでください。**
- **傾斜地や凸凹のはげしい作業場では、本機の安定性が悪くなります。速度を落し、荷物の量を控えめにして運転してください。**

- 本機の最大積載量は、
  平　地：60kg(0°～5°)
  傾斜地：40kg(5°～15°)
- 積載物の大きさは、
  長　さ：荷台のサイド フレームの寸法内：750mm
  横　幅：荷台のサイド フレームの寸法内：530mm
  高　さ：一般農用コンテナ1段分(約300mm)



取扱いのポイント

重量物を積載するとき、サイド フレームに荷物が強く当たると、サイド フレームが変形することがあります。またぶつけたり、足をかけたりすると破損する場合がありますのでご注意ください。

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検時期 / 点検項目	作業前	作業後	初回のみ 20時間 運転時	1年に1回 又は50時間 毎に1回
バッテリの点検	○			
バッテリの充電		○		
タイヤ空気圧の点検	○			
ブレーキ作動の点検	○			
ブレーキ ケーブルの点検・調整			○	○
ブレーキ シューの点検				○

- 長期間使用しない場合、バッテリの寿命を保つため、バッテリ充電は3か月毎に1回行ってください。

⚠警告

点検・整備は本機が誤って動き出さないように、平坦な場所で、駐車ブレーキ レバーを“ロック”（固定）し、電源スイッチを切りキーを抜いて行ってください。

バッテリ充電のしかた

タイヤと左右のスタンドを接地させ、本機を安定させた状態で、付属の専用充電器を使ってバッテリを充電してください。

⚠警告

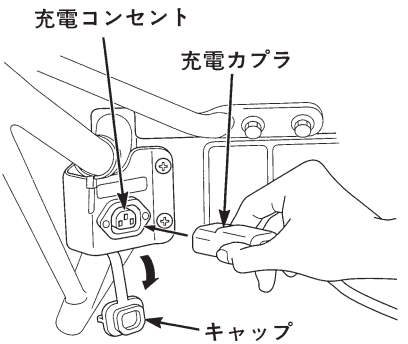
- バッテリを取扱うときは風通しの良い所で、ショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- 子供などにいたずらされないように十分な配慮をしてから行ってください。

取扱いのポイント

- メンテナンスフリー バッテリを使用しているので、バッテリ液は補給しないでください。
- バッテリを交換するときは、2個同時に交換することをおすすめします。古いバッテリと新しいバッテリを同時に使用すると、両方のバッテリの寿命が短かくなります。また、充電量の異なるバッテリを同時に使用すると、バッテリの寿命が短かくなります。

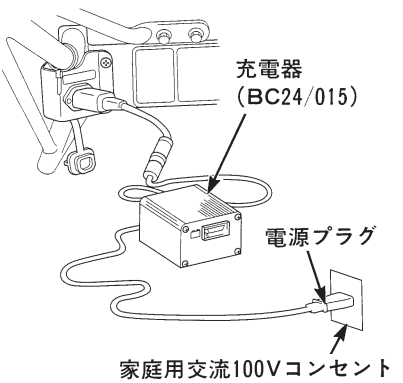
1．電源スイッチを“切”にし、キーを抜きます。

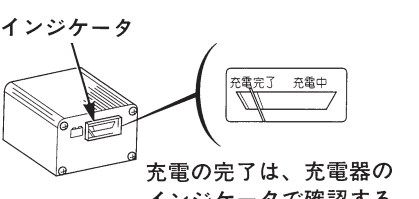
2．充電コンセントからキャップを外し、充電器の充電カプラを差し込みます。
充電カプラは、先端が充電コンセントに突き当るまで、確実に差し込んでください。



3．充電器の電源プラグを家庭用交流100Vコンセントに差し込みます。充電が始まります。
充電時間はバッテリの状態で変化しますが、最長で約８時間かかります。

4．充電器のインジケータを確認し、指針が充電完了の範囲に入ったら充電は終りです。
充電中、本機側バッテリ残量計は、バッテリ残量を正しく表示しません。充電の完了は、充電器のインジケータで確認してください。

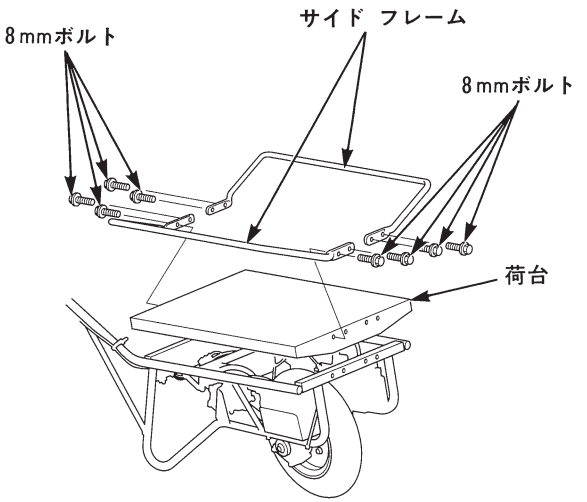




5．充電が終ったら、
①充電器の電源プラグを家庭用交流100Vコンセントから抜きます。
②充電カプラを充電コンセントから抜きます。
③充電コンセントにキャップを取付けます。キャップは確実に取付けてください。

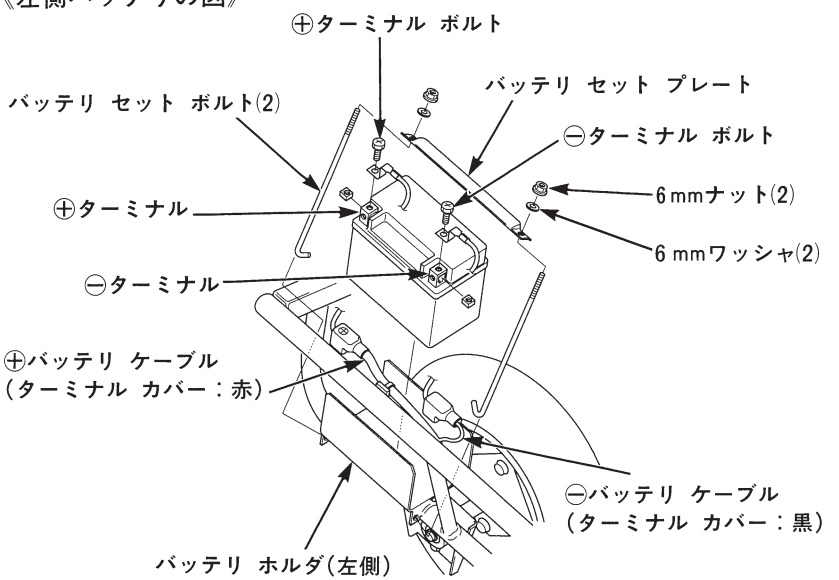
バッテリの取外しかた

1．8本の8mmボルトを外し、左右のサイド フレームと荷台を取外します。



2．6 mmナット 2 個を外し、6 mmワッシャ 2 個、バッテリ セット プレートおよびバッテリ セット ボルト 2 個をバッテリ ホルダから取外します。
3．㊀ターミナル ボルトを外し、㊀バッテリ ケーブルを㊀ターミナルから外します。
4．㊉ターミナル ボルトを外し、㊉バッテリ ケーブルを㊉ターミナルから外します。
5．バッテリ ホルダからバッテリを取外します。
バッテリの取付けは、取外しと逆の手順で行います。

《左側バッテリの図》



《右側バッテリ》
右側のバッテリは、㊀ターミナルが本機の前側になり、㊉ターミナルが後側になります。

ブレーキ ケーブルの点検・調整

ブレーキ ケーブルが正しく調整されていないとブレーキがきかなくなったり、ブレーキ レバーから手を離してもブレーキがきいた状態になります。

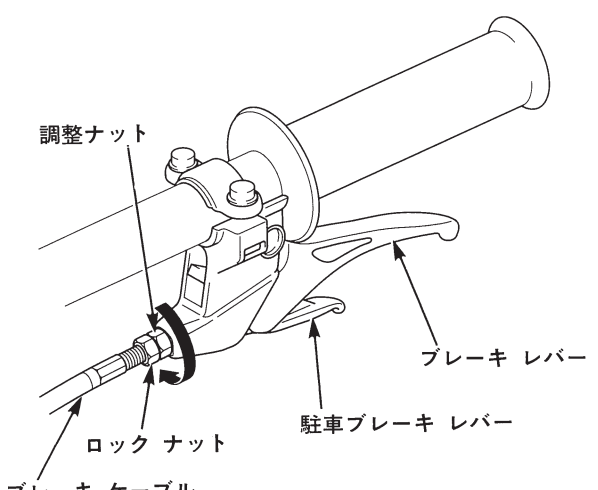
〈点検時期〉 初回20時間運転時、以後１年１回

点検

１．本機を空荷の状態で、平坦なアスファルト面に置きます。
２．電源スイッチを**“切”**にし、キーを抜きます。
３．駐車ブレーキ レバーをロック(固定)の位置にし、本機を水平に押したり引いたりしたとき、タイヤがロックしていることを確認します。
４．タイヤがロックしない場合は、調整してください。

調整

１．駐車ブレーキ レバーをロック(固定)の位置にした状態で、ロックナットと調整ナットをゆるめます。
２．調整ナットを図の矢印方向に徐々に回します。本機を水平に押したり引いたりして、タイヤがロックするまで調整ナットを回します。
３．ロック ナットを確実に締付けます。



ブレーキ シューの点検

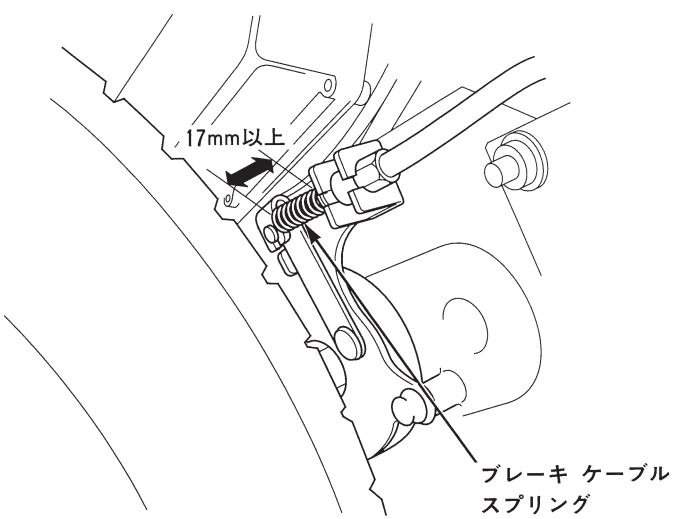
ブレーキ シューが摩耗するとブレーキがきかなくなります。

〈点検時期〉　1年1回

点検

1．駐車ブレーキ レバーを**“ロック”**し、タイヤの後方にあるブレーキ ケーブル スプリングの長さを測定します。
スプリングの長さが17mm以上あることを点検します。

2．スプリングの長さが17mm未満の場合は、ブレーキ シューが摩耗しています。
お買いあげ販売店へ交換をご依頼ください。

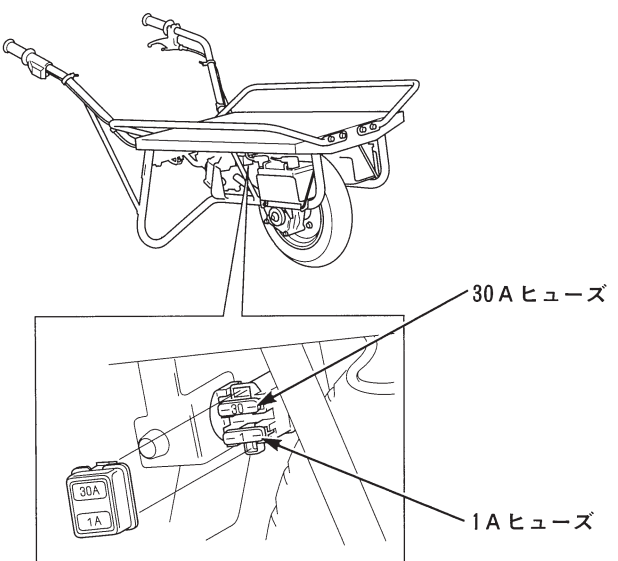


ヒューズの点検・交換

本機、右側のバッテリの後方にヒューズ ボックスがあります。本機が動かなくなったときは、ヒューズが切れていないか点検してください。ヒューズが切れていたら、規定容量のヒューズと交換してください。交換しても再び切れる場合は、お買いあげ販売店へご相談ください。

⚠警告

指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因になりますので、絶対に使用しないでください。火災を引き起こすことがあります。



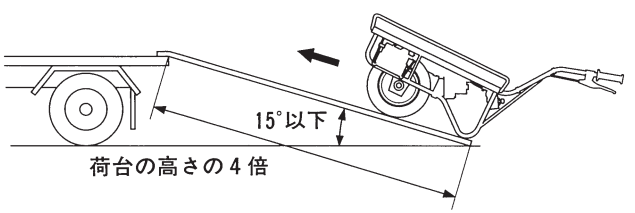
トラック（車）への積み降ろしのしかた

⚠警告

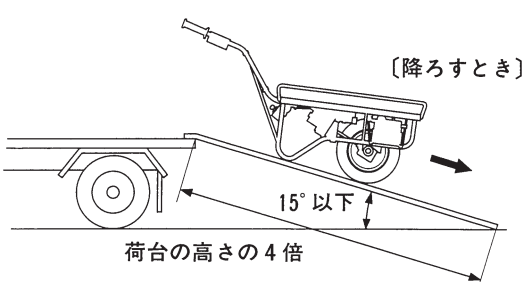
トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行ってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1．本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2．トラックへの積み降ろしは、平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3．アユミ板は耐荷重が0.5t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。（目安として荷台の高さの4倍以上）

〔積み込むとき〕



〔降ろすとき〕

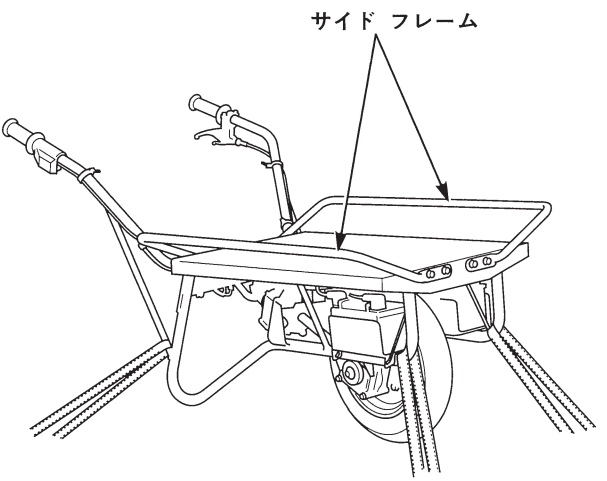


4．アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5．アユミ板と本機のタイヤが一直線になっているか確認してください。
6．荷物をおろし、低い速度で前向きに積み込んでください。

7．トラックに積み込んだら、駐車ブレーキ レバーを**“ロック”**(固定)してください。
8．本機をロープなどで左右4か所以上固定してください。

取扱いのポイント

サイド フレームにロープをかけないでください。
サイド フレームが変形するおそれがあります。



長期間使用しないときの手入れ

※長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠警告

点検・整備は本機が誤って動き出さないように、平坦な場所で、駐車ブレーキ レバーを“ロック”(固定)し、電源スイッチを切って行ってください。

保管前

1．本機を水拭きし、各部を清掃してください。

取扱いのポイント

ホース等で本機を水洗いしないでください。電気系統が故障する原因になります。

2．保管前に必ずバッテリを充電し、満充電状態にしてください。(24～25頁参照)

取扱いのポイント

バッテリの寿命を保つため、保管前に必ずバッテリを充電し、満充電状態にしてください。

3．電源スイッチを“切”にし、キーを抜き取った状態で、本機を雨のかからない風通しの良い乾燥した場所に保管してください。

保管中

保管中は、必ず3か月毎に1回、バッテリを充電してください。(24～25頁参照)

取扱いのポイント

バッテリの寿命を保つため、保管中は必ず3か月毎に1回、バッテリを充電してください。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

症状		チェック	処置
モータの補助が発生しない	バッテリ残量計が点灯していない	電源スイッチが“入”の位置になっていますか。	電源スイッチを“入”の位置にしてください。
	バッテリ残量計が点灯している	電源スイッチを“入”の位置にして30分以上放置していませんか？。	電源スイッチを“入”の位置にしたまま30分以上放置すると、自動的に電源が切れます。電源スイッチを一旦“切”の位置にしてもう一度“入”の位置にしてください。
	バッテリ残量計（左端2個のランプ）が点滅している	バッテリの残量は十分ですか？	バッテリを充電してください。
いつもより使用時間が短い、または何度充電しても使用時間が短い	バッテリ残量計（左端2個のランプ）がすぐに点滅する	坂道や重たい荷物、荒れた路面での使用等の高負荷運転を行っていませんか？	走行条件によっては、使用時間が短くなります。異常ではありませんので、そのままご使用ください。
		タイヤの空気圧が低くありませんか？（15頁参照）	294kPa(3.0kgf/cm²)までタイヤに空気を入れてください。
		長期間放置していませんか？	バッテリは長期間放置すると自己放電して残量が減ります。必要に応じて充電してください。
充電時間が短すぎる	バッテリ残量計がすぐに最大になる	充電器のインジケータは充電完了ゾーンに入っていますか？	充電器のインジケータが“充電完了”を指すまで充電してください。 充電中、バッテリ残量計は、バッテリ残量を正しく表示しません。
	バッテリ残量計が最小から20～30分で最大になる	充電器のインジケータが充電中ゾーンから20～30分以内で充電完了ゾーンになりますか？	バッテリの寿命なので交換してください。
充電器が熱くなる		手で触れないほど熱いですか？（通常は多少熱を持ちます。）	高温の場合は異常です。電源プラグを抜き、使用を止めてください。お買いあげ販売店へご相談ください。
充電できない		電源プラグがコンセント（交流100V）にきちんと差込まれていますか？	電源プラグをコンセント（交流100V）に差込んでください。
		ヒューズが切れていませんか？	新しいヒューズと交換してください。それでも充電できない場合はお買いあげの販売店へご相談ください。

同　梱　部　品　の　組　付　け　か　た

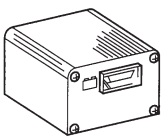
販売店の皆様へ

次の手順と要領で同梱部品を組付け、バッテリを充電してください。

同梱部品一覧

下記の部品が同梱されていることを確認してください。( )内は個数

充電器



同梱資料
- 取扱説明書
- 保証書
- 保証票
- サービス店一覧

バッテリが取外されている場合
- バッテリ(2)
- バッテリ電解液(2)
- バッテリ セット プレート(2)
- バッテリ セット ボルト(4)
- 6 mmワッシャ(4)
- 6 mmナット(4)

組付け

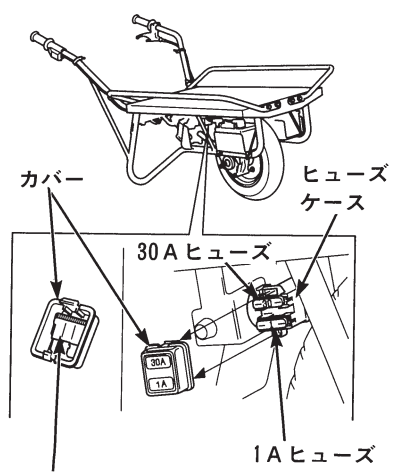
1．バッテリが同梱の場合、電解液を注入し、本機に組付けます。
- 電解液の注入は、電解液に添付された「注液方法」に従ってください。
- バッテリの組付けは、26～27頁を参照してください。

2．ヒューズを確認します。

①右側バッテリの後方にある、ヒューズ ケースのカバーを取外します。

②ヒューズが図の位置に組付けられていることを確認します。
ヒューズが外されている場合、組付けてください。

③ヒューズ ケースのカバーを組付けます。



バッテリの充電(初回充電の実施)

必ずバッテリを充電し、満充電状態にしてください。バッテリ能力の確保のため、充電が必要です。
- バッテリの充電は、同梱の充電器を使い、24～25頁の手順で行ってください。

バッテリに電解液を注入した場合、初回充電を実施することで、バッテリ能力が確保されます。

主　　要　　諸　　元

名　　称（タイプ）	HPE60(J1)
全長×全幅×全高	1360mm×615mm×525mm
本体重量	25kg(バッテリを除く)
タイヤ空気圧	294kPa(3.0kgf/cm^2)
モータ	24V　220W（定格）
バッテリ	12V 8Ah/10HR　2個 (YTX9−BS)
ヒューズ	30A・1A
最大積載量	60kg(平地0〜5°)、40kg(傾斜地5〜15°)
駆動方式	一輪駆動(前進フリーウェイ)
速度調整方式	ストローク センサ感知式無段階電子制御

バッテリ充電器

名　　称	BC24/015
入　　力	電　圧：AC100V
	周波数：50/60Hz
消費電力	70〜80VA
出　　力	電　圧：DC23.0V〜31.5V(充電時)
	電　流：1.4A(定電流充電時)
充電方式	定電圧/定電流 充電方式
	温度補正充電方式併用
充電時間	8時間

※諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA

The Power of Dreams

30V11601

©本田技研工業株式会社